週刊日本株レポート（11/24～11/27） ～ 国内企業の堅調な業績が下支えする中、AI投資への過度な懸念が後退したことから、上昇 ～

2026年11月24日作成

1. 日米株式と円／ドルの推移

＜日本株（日経平均）＞



＜米国株（NYダウ）＞



＜円/ドル＞



（注）チャートは過去1年

	単位	2025/12/31	2026/10/30	2026/11/20	過去3年高値		過去3年安値	
		（前年末）	（前月末）	（前週末）	水準	日付	水準	日付
日経平均	円	50,339.48	63,290.11	56,436.65	72,831.73	2026/6/22	30,792.74	2025/4/7
NYダウ	ﾄﾞﾙ	48,063.29	51,770.31	48,147.33	54,744.33	2026/8/5	35,280.57	2023/11/27
円/ﾄﾞﾙ	円	156.71	157.56	158.57	163.99	2026/7/23	139.58	2024/9/16

過去3年高値・安値はザラ場ベース / 当社が信頼できると判断した情報に基づき作成

2. 日本株市場　先週の振り返り

～ AI開発企業の大型上場があったものの、AI投資への懸念が払拭されず、大幅下落 ～

先週の日本株市場は、日経平均が▲4,705.70円（▲7.70%）、TOPIXが▲267.35ポイント（▲6.78%）となりました。AI開発企業の大型上場があったものの、AI投資への懸念が払拭されず、大幅下落しました。業種別では、空運業、小売業、医薬品、その他製品、精密機器など全業種が下落しました。

16日は、先々週末の米ハイテク株安の流れを引き継ぎ、AI・半導体関連銘柄を中心に下落しました。17日は、前日に米商務省が第三国のデータセンターを経由する先端半導体の利用を規制する法案を発表したことなどが嫌気され、米フィラデルフィア半導体株（SOX）指数が5%超下落したことを受けて、国内の半導体関連銘柄も売られ、続落しました。18日から19日にかけては、17日に発表されたエヌビディアの好決算を受けてAI・半導体関連銘柄に買いが広がったものの、市場全体を押し上げるには至らず、4日続落となりました。20日は、前日に米AI開発企業アンソロピックが上場し、初値は111.50ドルと公開価格を上回りました。一方、アンソロピック株の購入資金を捻出するため、保有するAI・半導体関連銘柄を売却する動きがあったとの観測もあり、米国株式市場は大幅に下落しました。国内株式市場も前日の米国株安を受け、AI・半導体関連銘柄を中心に幅広い銘柄に売りが広がり、大幅下落となりました。

3. 今週の主な予定

日程	曜日	国・地域	項目	期間	前回
11月24日	Tue	ドイツ	IFO企業景況感指数	11月	90.2
		米国	消費者信頼感指数	11月	91.7
11月25日	Wed	米国	耐久財受注（前月比）	10月	+1.9%
			米地区連銀経済報告（ベージュブック）公表		
			PCE（個人消費支出）価格指数（前年比）	10月	+3.6%
			新築住宅販売件数	10月	+67.6万件
11月26日	Thu	日本	日銀の田村審議委員、山梨県金融経済懇談会で講演		
11月27日	Fri	日本	東京都区部CPI（消費者物価指数）（除生鮮ｴﾈ/前年比）	11月	+2.6%
		中国	工業利益（前年比）	10月	+14.4%

決算発表予定　他	海外	決算発表	11/24 ｱﾅﾛｸﾞ･ﾃﾞﾊﾞｲｾｽﾞ、ﾃﾞﾙ･ﾃｸﾉﾛｼﾞｰｽﾞ、ﾜｰｸﾃﾞｲ、ｵｰﾄﾃﾞｽｸ 11/25 ﾌﾟﾛｻｽ

※ 当社が信頼できると判断した情報に基づき作成

4. 日本株市場　今週の見通し

～ 国内企業の堅調な業績が下支えする中、AI投資への過度な懸念が後退したことから、上昇～

今週の日本株市場は、国内企業の堅調な業績が下支えする中、AI投資への過度な懸念が後退したことから、上昇基調に戻るとみています。

本日（24日）の日本株市場は、23日の祝日中に米国株式市場が大幅に反発したことを受け、大幅高で始まっています。23日の米国株式市場では、エヌビディアが、先日辞任したジェンスン・ファン氏をCEO（最高経営責任者）に復帰させると発表したことを受け、AI投資への懸念が後退し、AI・半導体関連銘柄の買い戻しが進みました。エヌビディアは17日の決算発表で、市場予想を上回る売上見通しを示しています。ファンCEOの復帰を受け、同社の経営体制に対する不安が払拭されれば、AI投資に対する過度な懸念も後退するとみています。また、先週までに発表された国内主要企業の7-9月期決算では、2026年度の通期業績予想を上方修正した企業が多く、通期では10%台半ばの経常増益が見込まれています。足元では、AI・半導体関連銘柄に加え、内需関連銘柄などにも物色が広がっており、堅調な企業業績が市場全体を下支えするとみています。しばらくは、米民主党によるデータセンター規制を巡る報道などに左右され、AI関連銘柄を中心に値動きの大きい状況が続くとみています。ただし、堅調な業績を背景に市場は徐々に落ち着きを取り戻し、その後は中期的な上昇基調に戻るとみています。その他の注目材料として、日本では27日の東京都区部CPI、米国では25日のベージュブックと、PCE価格指数（前年比）が挙げられます。

ALAMCO 朝日ライフ アセットマネジメント
URL：https://www.alamco.co.jp
商号等　：朝日ライフ アセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者　関東財務局長（金商）第301号
加入協会：一般社団法人資産運用業協会

本資料は、朝日ライフ アセットマネジメント（以下、「当社」といいます。）が、投資の参考となる情報提供を目的として作成したもので、特定の商品に対する投資勧誘を意図するものではありません。本資料は当社が信頼できると判断した情報に基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。資料中に記載されたグラフ、数値等は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。また、コメントについては作成日時点での判断であり、将来予告なく変わることがあります。最終的な投資決定はお客様ご自身の判断でなさるようにお願いいたします。